

学校名 いわてけんわ がぐんにしわ がちようりつゆ だしょうがっこう  
**岩手県和賀郡西和賀町立湯田小学校** 校長名 もり しま ひろし  
**盛 島 寛**

所在地 〒029-5503 岩手県和賀郡西和賀町湯田20-57-7

TEL 0197-84-2816

FAX 0197-84-2826

E-mail qqte2e29k@bridge.ocn.ne.jp

### 1 研究主題

「子どもが主体的に学ぶ学習指導の在り方」  
 - 教師一人一人が主体的で計画的な  
 実践研究の推進を通して -

### 2 研究の期間

平成27年度～平成30年度 4年間

### 3 研究の目的

本校は、平成23年度に3つの学校が統合してできた学校であるため、遠隔地から学校に通う子どもが多く、全校児童88名中62名(70%)がスクールバス・スクールタクシー通学であり、徒歩通学の児童は、26名(30%)である。

このような状況であったため、研究開始当初は、肥満児が多くなってきていた。生活習慣に課題があり、生活リズムの乱れもあった。また、体力・運動能力方面については、個人差が大きく、運動する子としない子の二極化が見られた。

そこで、体育授業において、子どもが主体的に運動したくなるような教材の工夫をし、「充実した体育授業」を行っていきと共に、基礎基本をしっかりとし身に付け、「成果」のある体育授業を実践し、体力向上を図りたいと考えた。

### 4 研究の方法・実践内容

#### (1) 体育授業の充実

##### ア 「形成的授業評価」の活用

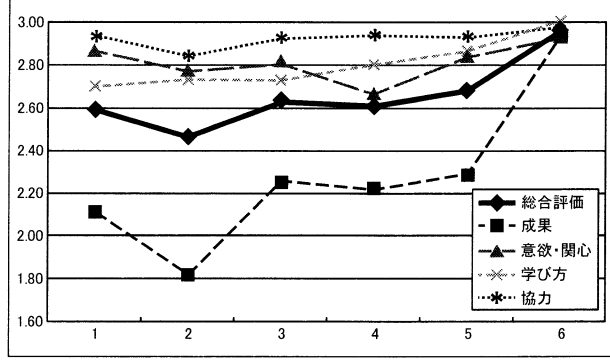
形成的授業評価を活用し、子ども達の評価から授業の改善を図ると共に、子ども達が高く評価する体育授業を実現することができた。

右上の表とグラフは、第6学年「短距離走・リレー」の形成的授業評価の結果である。本授業は第2時で、新しい方法のリレー(クローズアップバトンパス折返しリレー)を初めて行ったため、やり方が分からずに「成果」次元は大きな落ち込みがあった。第3時、第4時、第5時とバトンパスはうまくいったりいかなかった

りで、停滞が見られた。第6時では、うまくいったら帽子を赤にするという手立てをとったら、子ども達はたいへん意欲的に取り組み、まだうまくできていない子には積極的に声がけをし、教え合いが活発に行われ、全員が赤帽子となった。その結果、形成的授業評価は最高の値を示した。

【第6学年】形成的授業評価一覧表「短距離走・リレー」

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
総合評価	2.59 (4)	2.46 (3)	2.63 (4)	2.61 (4)	2.68 (4)	2.96 (5)
成果	2.11 (2)	1.82 (1)	2.26 (3)	2.22 (3)	2.29 (3)	2.93 (5)
意欲・関心	2.87 (4)	2.77 (3)	2.81 (3)	2.67 (3)	2.83 (4)	2.93 (5)
学び方	2.70 (4)	2.73 (4)	2.73 (4)	2.80 (4)	2.87 (5)	3.00 (5)
協力	2.93 (5)	2.85 (5)	2.85 (5)	2.93 (5)	2.93 (5)	2.97 (5)



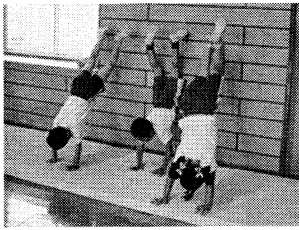
#### イ 「体育授業場面のコーディングシート」「教師の相互作用行動の観察コーディングシート」の活用

体育授業は、運動学習が中心となる。そこで、「体育授業場面のコーディングシート」を活用し、運動学習場面を50%は確保できるよう、マネジメント場面(移動、待機、用具の準備・後始末など)を極力減らし、学習指導場面での教師の話もできるだけ簡潔にするよう心掛けた。

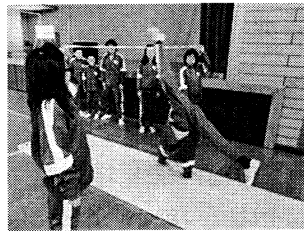
また、「教師の相互作用行動の観察コーディングシート」を活用し、フィードバックは、肯定的・矯正的で具体的なものを多くし、否定的なフィードバックは、できるだけ避けた。これにより、授業の雰囲気がよくなり、子ども達は、運動の大切ポイントをおさえ、どこに気を付けて運動すればよいか分かるようになった。

## ウ 感覚づくり・動きづくりや場の工夫

(写真1) 壁登り逆立ち



(写真2) ゴムを利用した側方倒立回転

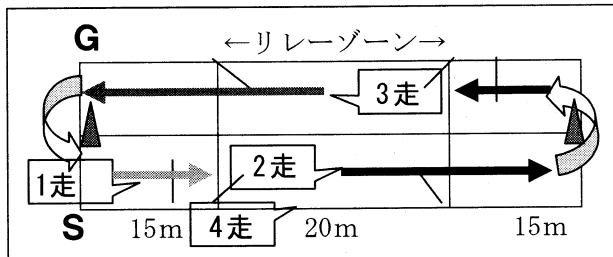


1年生の「マット遊び」では、動物歩きで腕支持感覚、壁登り逆立ちで逆さ感覚を養った。

5年生の「マット運動」では、中心教材を決め、「開脚後転」では坂道を活用したり、「側方倒立回転」ではゴムを利用したりして、場づくりや段階的指導の工夫を行った。

### エ 主体的に学ぼうとする教材の工夫

6年生の「リレー」の学習では、バトンパスのうまさが決めるような折返しリレー（クローズアップバトンパス折返しリレー）の場をチーム数分作り、他のチームと競走して楽しんだり、タイムを計測していくら速くなったかを競ったりできるようにした。子ども達は、スピードを落とさないバトンパスに熱心に取り組んだ。（1走が更に4走からバトンをもらいゴールする。）



(図1) クローズアップバトンパス折返しリレー

## (2) 子どもたちが楽しんで行う体育的活動

### ア 校門から昇降口までの通路で

ケンステップやミニハードルを並べ、様々なステップを踏む活動や調子よく跳び越える運動をして登校するようにした。



### イ 朝の自主的運動

子どもにとって魅力的な運動の場を設定することにより、どの学年の子ども達も楽しく、進んで朝の運動に参加するようになった。



### ウ 業間体育と自由遊び

自由遊びの時間を保障すると共に、業間体育では、夏は「マラソン」と「いろいろな運動」を行い、興味関心をもって主体的に運動に取り

組めるようにした。また、冬は「リズム縄跳び」や「長縄跳び」、「縦割り遊び」などを行った。

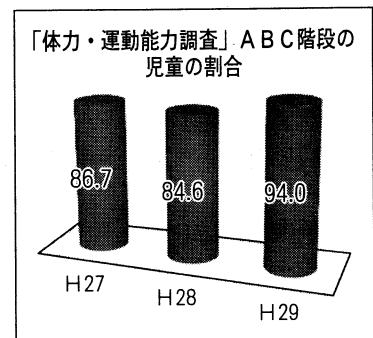
## (3) 「光・暗闇・外遊び」で家庭との連携

よりよい環境を大人が作ってあげるよう、校報や保健だよりで呼びかけたり、地区懇談会で説明したりした。また、「親子まなびフェスト」でも取り組みを進めることにより、早寝・早起きなどの生活習慣の安定化が図られた。

## 5 研究の成果

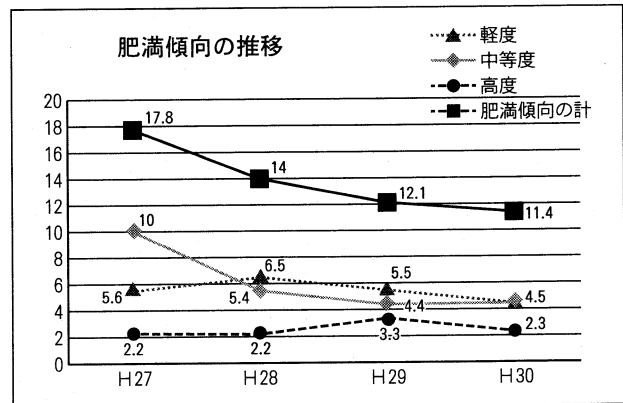
(1) 運動量を確保した体育授業、基礎基本をしっかりと身に付け「成果」のある体育授業を実践することができ、体育授業の充実が図られると共に教員の「授業力」が向上している。

(2) 「新体力テスト」の総合評価ABC段階の児童の割合は、平成27年度は86.7%、平成28年度は84.6%、平成29年度は94.0%と本県の目標である80%を大きく上まわっている。



(3) 本校の課題であった「早寝・早起き」は、家庭と連携した取組みにより改善が図られ、生活習慣が安定してきている。

(4) 肥満傾向児は、平成27年度17.8%、平成28年度14%、平成29年度12.1%、平成30年度11.4%と減少してきている。



## 6 研究の意義、発展性

「体育授業の充実」を研究の基本に据え、子ども達が楽しんで行う体育的活動を行い、家庭との連携による生活習慣の安定化を図ることにより、子ども達が生き生きと主体的に学ぶ体育授業を行うことができ、その結果として、体力向上が図られ、肥満傾向児が減少してきている。

平成30年度は、この成果を岩手県教育研究発表会で発表し、平成31年度は西和賀町教育委員会指定の学校公開を行う予定である。

【参考文献】 ※「体育授業を観察評価する」

高橋健夫 編著 (明和出版) 2003年